

# 加西市都市計画マスタープランの策定について

～まちづくりの方向性・理念・基本目標～

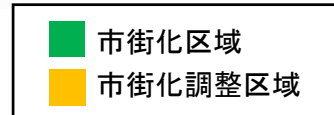
---

令和3年度第5回都市計画審議会  
令和4年3月25日(金)14時30分から  
加西市役所 1階多目的ホール

# 目次

- 1 策定概要
- 2 まちづくりの主要課題
- 3 まちづくりの基本的な方向性と将来都市像
- 4 基本理念・まちづくりの目標
- 5 将来人口
- 6 拠点性評価
- 7 将来都市構造図(案)

市人口(R3.3月末)43,252人  
市域面積…15,022ha  
市街化区域…583ha(3.9%) 1.1万人  
市街化調整区域…11,216ha(74.6%) 2.9万人  
都市計画区域外…3,223ha(21.5%) 0.3万人



# 策定概要

## 【都市マスの構成イメージ】

全体構想	理念や目標	1.まちづくりの目標 2.将来人口 3.将来都市構造
	部門別整備方針	4.部門別の整備方針 ①土地利用                      ⑥自然環境 ②道路・公共交通            ⑦景観形成 ③公園・緑地など            ⑧市街地整備 ④下水道及び河川            ⑨住宅地整備 ⑤その他の都市施設        ⑩都市防災
	地域別構想	5.地域別構想 ①北条地域 ②善防地域 ③加西地域 ④泉地域
実現化に向けて	6.実現化に向けて ①制度の活用 ②住民中心のまちづくりの推進 ③総合的な協働体制の構築	

市全体の都市構造や分野別方針を定める「全体構想」、地域特性に応じた整備方針を定める「地域別構想」、構想の推進体制等の考え方を定める「実現化に向けて」の3つの大項目により構成。

## 【策定手順】



# ■まちづくりの主要課題

## まちづくりの主要課題（前回再掲）

### 加西市の特性に見合う都市構造の構築

- ・本市は市街化調整区域に総人口の約 2/3 が居住されていることから、市街化区域の計画である立地適正化計画は本市に向いていません。しかし、効率的な都市経営の観点から同計画が標榜する「コンパクトネットワーク」の都市構造は重要です。そのため、本市の状況を踏まえた、**加西市版コンパクトネットワークの構築**を模索する必要があります。
- ・本市は東西方向の国幹軸上に IC が接続されている反面、南北方向の幹線道路軸が脆弱で、また市内幹線も幅員が狭く大型車両が流入し円滑な交通体系とはなっていません。加えて都市計画道路が市街化区域内にしか計画決定されていません。そのため、**本市にみあった道路体系の見直し**が必要です。**(改善度 2位)**
- ・公共交通網形成計画に基づき、宇仁地区や日吉地区等で地域主導型交通を導入していますが、将来の都市のあり方を踏まえ新型モビリティ導入の検討や Maas 等の導入により公共交通の利用促進を検討する必要があります。**(改善度 3位)**
- ・まちなかを歩行者が歩きたくなるよう、安全で快適な道路空間の形成が必要です。**(改善度 1位)**

### 地域活性化に資する都市づくり

- ・市外からの流入による人口超過には限界であることから、**若者や女性の支持を得て加西市が選択されるまちづくり**が必要です。また、転入促進にむけ短期滞在やお試し居住などを二地域居住につなげるなどの取組を推進する必要があります。
- ・市街化区域が狭小であるため、人口増の受け皿として市街化調整区域も担う必要があります。そのため**特別指定区域制度の内容見直し**により新規居住者や外国人技能実習生等が定住できるようにする必要があります。
- ・鶴野飛行場跡地周辺などの歴史遺産群や交流拠点として、歴史展示、観光案内、物販飲食等の機能を併せ持つ地域活性化拠点施設「**goraかさい**」や整備検討中の「**道の駅**」をはじめ**本市の特色を活かした観光振興**により地域を活性化する必要があります。
- ・工業用地不足を解消するため、**産業団地だけでなく地区計画により企業誘致**し、定住促進と地元集落の活性化に努める必要があります。**(改善度 5位)**

### 脱炭素、循環型社会の実現と最先端のまちづくり

- ・「エネルギーの地産地消が実現された脱炭素のまち加西」を達成すべく「**加西市気候エネルギー行動計画**」をふまえ、エネルギー自給力向上、**市民事業者の省エネ行動の拡大等の機運を高めるまちづくり**を推進する必要があります。
- ・本市が豊富に有する山や農地等が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進める**グリーンシンプラ**の取組みを推進する必要があります。
- ・IoTで全ての人とモノがつながり、人工知能(AI)の活用により必要な情報が必要な時に提供され、ロボットや自動走行車技術で、都市課題が解決され、市民の暮らし向きが向上する**スマートシティ**の検討をする必要があります。

### 効率的な行財政運営と住民・行政の協働の推進

- ・人口が大幅に増加する見込みがなく今後大きな財政収入が見込めない中で、**長期未着手の都市施設の見直しや公共施設の適切な維持管理等による長寿命化を図るなど、有効かつ効率的に行財政を運営**していく必要があります。
- ・広範に及ぶまちづくり施策を行政だけで実現することは難しく、**道路や公園などの公共施設の維持管理など市民と行政が協働で取組む**ことが重要です。

### 大規模災害に対する備え

- ・本市は、北条の市街化区域内の一部や斜面地や斜面沿いの幹線道路の土砂災害被害や富田校区や九会校区の網引駅から万願寺河の合流部にかけて洪水浸水想定区域では河川浸水の懸念があります。災害リスクの低い場所への居住誘導など**災害リスクを踏まえた土地利用のあり方を検討**するとともに、**避難施設の更なる充実や避難路の確保、住宅密集地などの解消やオープンスペースの設置**といった都市基盤の整備のほか、**自主防災組織**が有事に機能できる体制となっていることなど、住民の命と生活を守るための対策が急務となっています。**(改善度 4・5位)**

# ■まちづくりの基本的な方向性と将来都市像

## まちづくりの基本的な方向性

- ・大阪へのアクセスの良さを生かして、産業立地、生活利便性を高める。
- ・総人口の2/3が居住する市街化調整区域の規制を緩和しながらまちづくりを推進。
- ・若者世代にも魅力ある都市として、環境共生都市・IoTまちづくりに取り組む。
- ・都市構造上脆弱性がみられる南北軸と公共交通体制の強化

## 新しいまちが目指す都市のイメージ

### ○市全体

先進都市としてのイメージが周辺自治体に浸透し若い世代から転出先として注目される

昼夜間比率の上昇、生産人口の増加

IoTを活用した防災・防災まちづくりが進展

農業の加西ブランドに磨き

新しい観光や平和教育が提供され観光客が増加

みんながストレスなく多様な移動の選択ができる

### ○北条・中野（主核・副核）

市街地内の低未利用地の整備により、若い世代が転入

歩行空間は整備が進み、歩きやすく回遊性が高まっている。

脱炭素のまち・新しい観光・産業のまちとして全国の先進都市

### ○他の集落地

特別指定区域制度により集落地で住みたい新たな居住者の受け皿

必要な時に必要な場所で移動できるところにすんでも便利

# ■基本理念・まちづくりの目標

## 基本理念

大空に夢がふくらむ「未来の田舎」かさい  
～みんながあこがれる未来都市～

### 未来に輝くまちづくり

未来の子ども達へ美しいまち・美しい地球を遺すべく、**エネルギーの地産地消が実現された脱炭素のまちづくり**を推進するとともに、未来をみすえ**IoTと融合させたまちづくりを推進**し、みどりあふれ人や自然に優しく若い世代に選ばれる、未来に輝くまちづくりに取り組みます。

### 便利で暮らしやすいまちづくり

本市の土地利用の成り立ちをふまえ、便利な都市機能を集約するなど**各集落の拠点性を向上させることによる均衡ある発展とともに、市内の容易な移動を可能にする交通体系を構築した「加西市版コンパクトプラスネットワーク」**を目指します。特に移動にあたっては集落間の移動を容易にする**自動運転やデマンドバス・タクシーの導入について検討**します。

若い世代や市外からの受入れ先となるよう、街中の回遊性を高める街並みや歩きたくなる歩道など**都市イメージを刷新する市街地整備**を推進します。

障がい者や近年増加する技能実習生や特定技能外国人外国人の方々など誰もが不自由なく快適に暮らすことのできる**インクルーシブなまちづくり**を推進します。

### 活気あるまちづくり

集落内で職住が近接することにより各集落が持続的に発展できるよう、既存の産業団地の良好な雇用環境の維持とともに、IoTの活用や脱炭素に向けたインフラ整備など、**競争力のある産業を支え、メリハリがあり活気あるまちづくり**を推進します。

### 安全安心なまちづくり

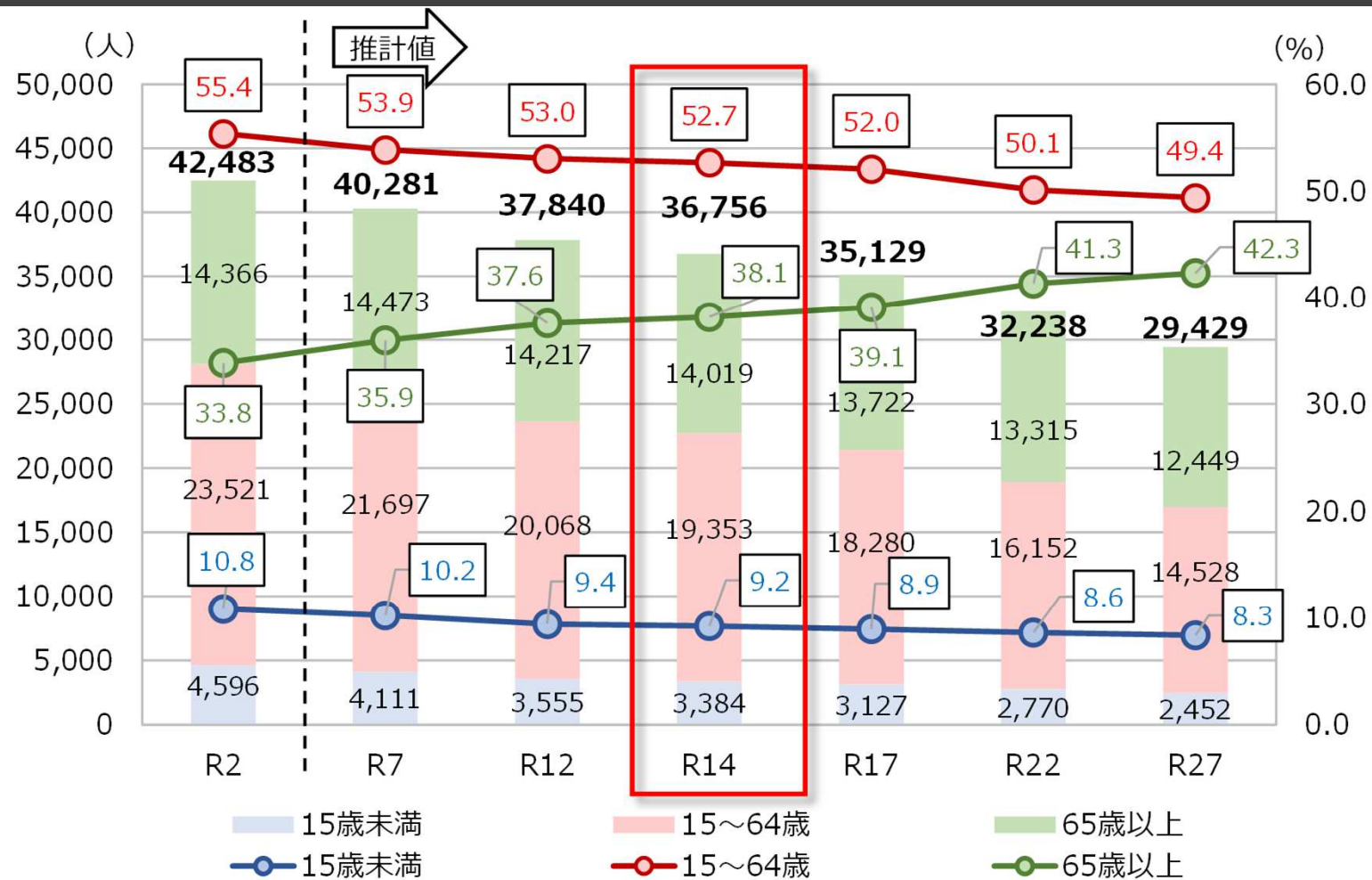
災害リスクを低減し安全なまちとするため、防災施設の適正な維持管理とともに、避難施設、避難路の整備や避難訓練の実施など**減災の取組**を進めます。また、**災害リスクの低減が困難な場所へは居住を誘導しない**こととします。

さらに、防犯カメラのAIによる解析や災害の危険状況の通知など、**IoTを活用した防災・防犯まちづくりについても検討**します。

### 多様な主体の交流によるまちづくり

現在の市街地の規模を抑え、無秩序な市街地や集落地等の拡大を抑制しながら市街地更新を進めるといった**コンパクトなまちづくりを推進することにより、一人あたりの行政コストを低減**します。また、公共施設や遊休地等の既存ストックを活用し、民間企業等の人材やノウハウを活用するなど、**人・モノ・金・土地・ハコモノなど資源を総動員し、効率的なまちづくりを推進**します。そして、住民が率先してまちづくりに取り組めるよう、積極的な参加機会を創出します。これらの**行政、企業、住民の協働による、新しい時代のまちのマネジメント**を目指します。

# ■将来人口（都市計画マスタープラン）



コロナの影響により、R3年度の合計特殊出生率は0.91まで下がる等、将来人口の推移の見通しは厳しい。将来推計の結果によると、今後も人口減少、高齢化の傾向が続き、計画目標年次のR14年には総人口約3.7万人、老年人口割合約38%になると予測される。

**令和14(2032)年の将来人口**  
 ○総人口…36,756人(比R2: ▲13.5%)  
 ・年少人口……3,384人(9.2%)  
 ・生産年齢人口…19,353人(52.7%)  
 ・老年人口……14,019人(38.1%)

# ■拠点性評価

人口の分布状況、都市機能の集積状況、公共交通の整備状況を確認し、将来都市構造図(地域拠点)作成の参考とする。

## 評価手順

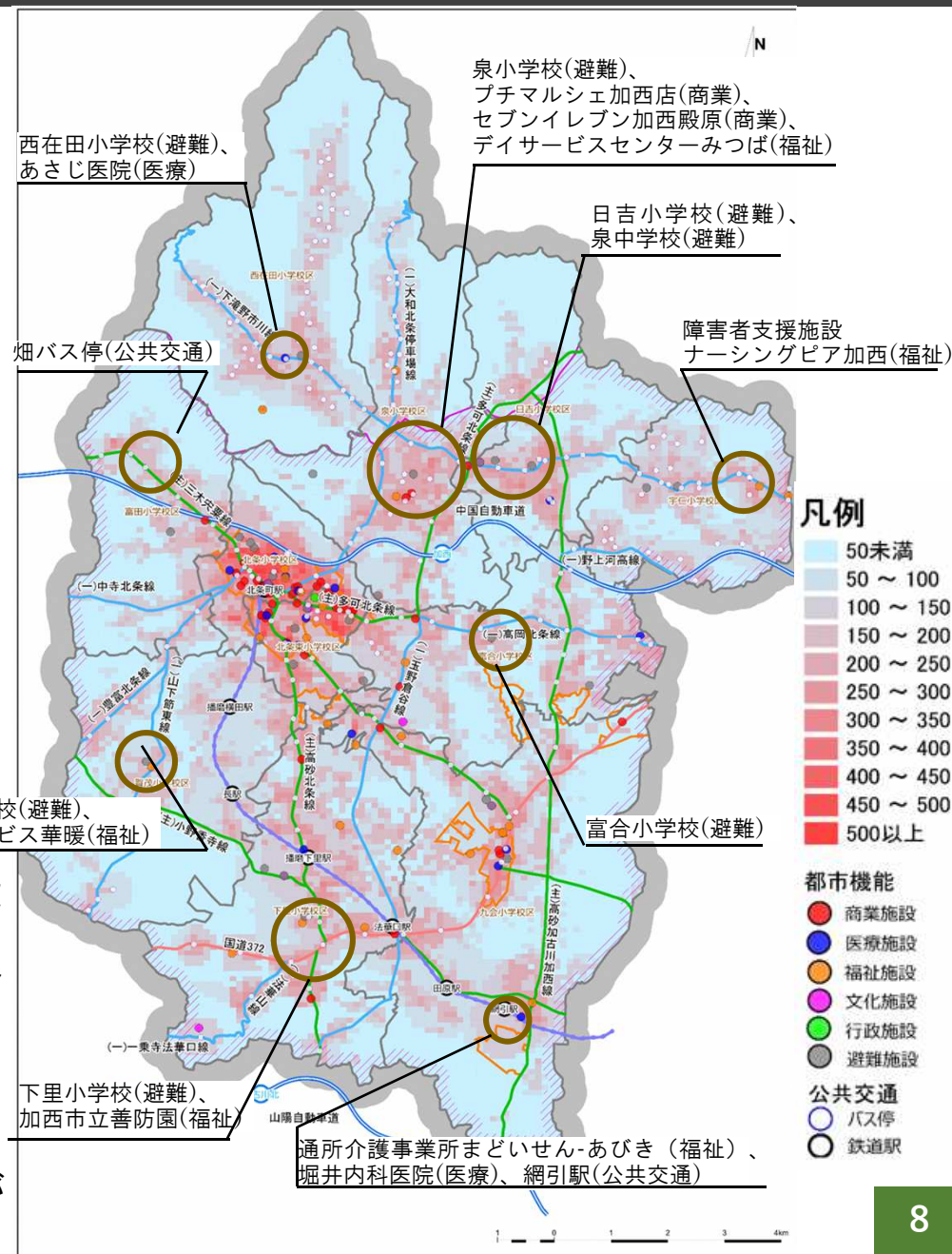
・市内の拠点性や生活利便性を表す「拠点レベル」を定量的に算出

1. 市内全体を100m単位でメッシュ化
2. メッシュごとに4つの指標)を算出  
①現況人口分布H27年、②将来人口R17年、③都市機能施設へのアクセス性、④公共交通(駅・バス)施設へのアクセス性
3. 指標を統合し「拠点レベル」を求める  
メッシュごとに、①～④それぞれの偏差値を取り、それらを合計した数値を「拠点レベル」とする

## 点数配分

・「都市機能(商業・医療・福祉・文化・行政・避難)施設へのアクセス性」、「公共交通(駅・バス)施設へのアクセス性」は、施設の重要度や機能性に応じ点数を配分

- ・図面上、暖色系ほど生活利便性が高く人口が集積していることを示す・・・**拠点レベルが高い**
- ・図面上、寒色系ほど生活利便性が低く人口の集積が低いことを示す・・・**拠点レベルが低い**





# ■将来都市構造図案（核、拠点）

## 都市核・副都市核

北条市街地を「都市核」、中野・鶉野地区を「副都市核」として都市機能の強化を図る。

### 地域拠点

地域の中心的な役割を担い、都市機能が集積している拠点を「地域拠点」として、機能強化、居住誘導を図る。

### 交通拠点

人、モノの交流を促進する交通結節点を交通拠点として機能強化を図る。加西IC、北条町駅、法華口駅を交通拠点、中富口、中野を乗り継ぎ拠点として機能強化を図る。

### 産業拠点

市内5つの産業団地、繁昌町国道372号沿い、畑町、東高室の三木中央線沿いを「産業拠点」として、集積の維持・強化を図る。

### 商業拠点

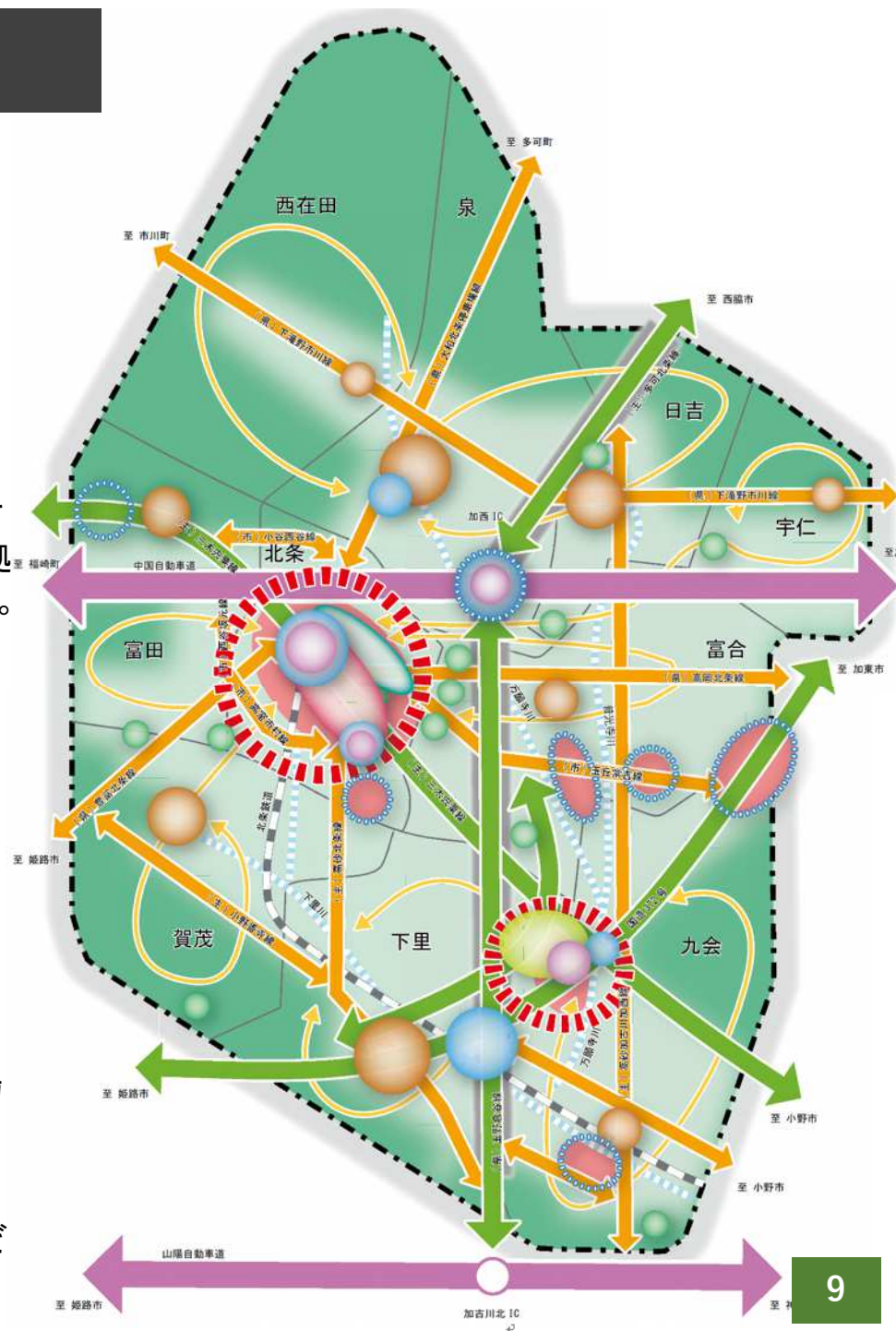
北条町駅周辺地区、東高室地区、加西IC周辺地区、中野・鶉野地区を「商業拠点」として商業機能形成を図る。

### 未来創造拠点

道の駅構想、市道鶉野飛行場線整備を行う鶉野飛行場跡地周辺を「未来創造拠点」として整備します。

### 緑遊拠点

アラジスタジアムを初めとした運動施設、ゴルフ場などを「緑遊拠点」として交流機能の強化を図る。



# ■将来都市構造図案（軸、ゾーン）

## 国土軸

日本の重要な道路交通軸。広域的な都市活動を支える道路として中国道、山陽道を「国土軸」とします。

## 広域軸

市の骨格を形成する道路。国道372号、県道玉野倉谷線、多可北条線、市道鶉野飛行場線、豊倉日吉線を「広域軸」とします。

## 地域軸

国土軸、広域軸を補完、交通を円滑にする道路。県道高岡北条線、市道玉丘常吉線を「地域軸」とします。

## 地域交流軸

はっぴーバスや将来的に地域で運営する地域主体型交通を「地域交流軸」とします。

## 自然環境軸

自然の潤いをもたらす万願寺川、下里川、普光寺川を「自然環境軸」とします。

## 市街地ゾーン 都心居住エリア 居住促進エリア

都市的土地利用を積極的に進め、市街地形成を図るエリアを「市街地ゾーン」。うち商業、公共施設の集積を図る「都心居住エリア」、良好な住環境の形成を図る「居住促進エリア」を設定。

## 都市近郊ゾーン 自然ゾーン

農業環境、居住環境の共生を図る「都市近郊ゾーン」、緑豊かな山林の保全活用を図る「自然ゾーン」を設定。

